

未来をつくるあなたに

なんで、道路は

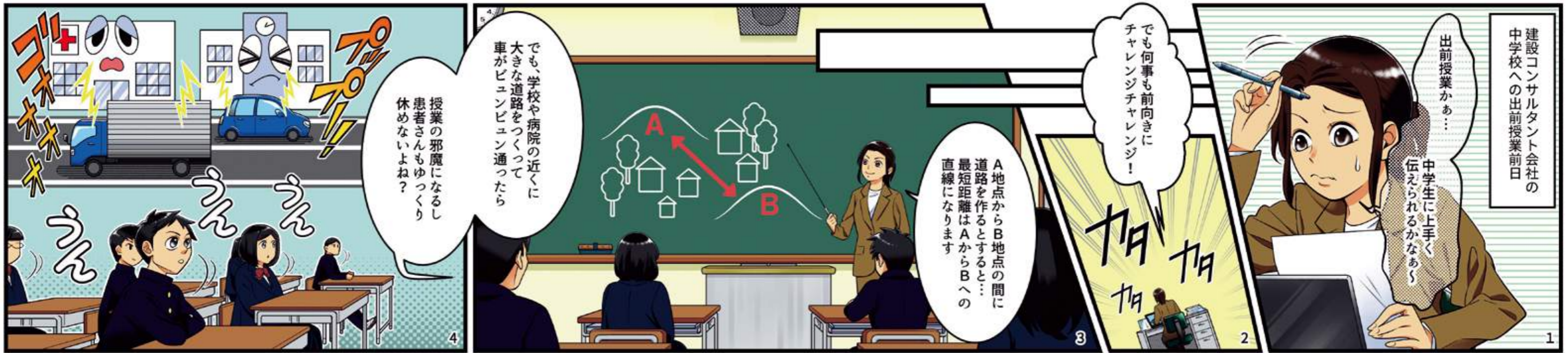
●建設コンサルタントがマンガで紹介●

まっすぐじゃないの？



まえだ
〈前田 ほたる〉

建設コンサルタント会社に勤務 5年目
大学で環境デザインを学ぶ
「未来をつくること」に情熱をそそぐ



※平面線形…道路のセンターラインの直線やカーブの連続的な組み合わせの形
※縦断線形…道路の登り坂や下り坂の連続的な組み合わせの形



Q. 道路の舗装には、どのような種類があるの？

A. 大きく分けて「アスファルト舗装」と「コンクリート舗装」の2種類があり、それぞれの舗装の特徴を踏まえて使う場所を選定しています。
 コンクリート舗装は、アスファルト舗装に比べて「すり減り」に強く、わだちがでにくい特徴があります。大型車交通量が多く舗装の痛みやすい場所や、トンネルなど舗装の補修が難しい場所に選定されます。

アスファルト舗装とコンクリート舗装の特徴

	舗装の丈夫さ (耐磨耗性)	期間の短さ (工事期間)	費用 (経済的)
アスファルト	△	○	○
コンクリート	○	△	△

Q. アスファルト舗装には、雨水が浸透するものがあると聞きました。どんな種類や効果があるの？

A. 雨水が浸透するアスファルト舗装には、「排水性舗装」「透水性舗装」「保水性舗装」があります。雨水浸透の仕組みの違いで得られる様々な効果を踏まえて、使う場所を選定しています。

雨水が浸透するアスファルト舗装の種類と効果

舗装の種類	特徴	効果
排水性舗装	<p>舗装表面に降った雨水を、舗装の途中まで浸透させの側溝に流します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨水が舗装表面を流れないため、車の走行安全性が向上します ● タイヤ/路面から発生する走行騒音が、舗装の空隙(くうげき)に吸収されて小さくなります <p>【主に使われる場所】 ハイドロプレーニング現象の対策が必要な車道、住居地域などで交通騒音対策が必要な車道 <small>※ハイドロプレーニング現象…高い速度で車が走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、水の上を滑るようにハンドルやブレーキが利かなくなる現象</small></p>
透水性舗装	<p>舗装表面に降った雨水を、舗装下の地中にもどします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨水が舗装表面を流れないため、雨の日も歩きやすくなります ● 雨水を受ける水路のサイズを小さくできます ● 地中に雨水が入るため、街路樹が育ちやすくなります <p>【主に使われる場所】 バリアフリー歩道(舗装面を平坦にした歩道)</p>
保水性舗装	<p>舗装表面に降った雨水を、舗装の隙間に充填(じゅうこん)した「水」を吸着する材料(保水材)に溜めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 気温が上がると、舗装内の水分が蒸発して周辺の気温を下げ、ヒートアイランド現象を緩和します <p>【主に使われる場所】 夏の熱対策が必要な都市部の車道や歩道</p>

編集後記

「まちづくりのしくみ」を中高生に分かりやすく伝えたい!!

このパンフレットは、新潟県立新潟工業高等学校土木科の皆さんと建コン協北陸支部が協働(コラボ)して作成いたしました。生徒の皆さんには大変熱意を持って取り組んでいただき、心より感謝いたします。
 (一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部は、これからも「未来をつくる若者」の声を大切にしながら、応援していきます。

私達の意見が反映されていて嬉しい!!

色々な人に土木に興味を持ってもらえそう



新潟県立新潟工業高等学校土木科の皆さん

読者にわかりやすく話しかける雰囲気で見やすい



取り組みの様子

舗装の種類と特徴が分かりやすい

建設コンサルタントの仕事に興味を持った楽しそう!!